

2018 春季生活闘争アピール

# 底上げに向けた今後の取り組みについて

## ～ 賃上げをすべての働く者へ ～

本日、2018 春季生活闘争における最初のヤマ場を迎えた。

今次闘争では、月例賃金の引き上げにこだわり、「底上げ・底支え」「格差是正」につながる賃上げの流れを継続させることを主張している。

経営側は、個人消費の活性化を通じた経済の自律的成長に向けた社会的な要請や期待については一定程度の理解を示しつつも、経済や事業の先行き不透明感、過去4年間の賃上げによる賃金水準の上昇などを理由に、賃上げに対しては極めて慎重な判断が必要との厳しい態度を示し、交渉は難航した。

しかし組合は、企業・産業の存続と成長のためには同じ職場で働くすべての「人への投資」が必要と、粘り強く交渉を行った。結果、本日現在、継続して賃上げの回答を引き出している。回答水準についても、昨年水準を上回る基調にあり、交渉継続中の組合にエールを送り、また追い風となる成果である。

すべての働く者の処遇の「底上げ・底支え」「格差是正」を実現するためには、本日までに示された回答内容を、続く中堅・中小組合はもとより、未組織を含めたすべての働く者の賃金引き上げに確実に波及させなければならない。第5回戦術委員会確認事項を踏まえ、以下の事項に取り組むことを要請する。

### 記

1. 先行する組合が引き出した回答内容を賃上げのうねりとしてあまねく波及させるために、交渉中の組合は3月決着に向けて全力を尽くす。また、非正規労働者の雇用の安定と処遇の改善に向けて、正規・非正規の同時決着をめざす。
2. 恒常的な長時間労働の是正や職場全体の生産性向上につながる働き方の見直しについても、積極的かつ前向きな回答を引き出す。
3. 構成組織は、交渉中の組合に対する訪問オルグなど、要求趣旨に沿った回答引き出しに向け全力を尽くす。大手組合は、グループ・関連会社組合の支援を強化する。
4. 地方連合会は、地場共闘のもとで、構成組織の地方組織と連携し、中小・地場組合の交渉を支援するとともに、回答内容などの情報共有をタイムリーに行う。加えて、成果を地場における賃金相場の底上げに波及させるため、効果的なアピールや情報提供を行う。

連合は、構成組織、地方連合会、組合との連携を強め、月例賃金引き上げの流れを継続させるべく、波及の強化をはかっていく。

2018年3月14日  
日本労働組合総連合会  
中央闘争委員長  
**神津 里季生**